

林業の成長産業化を目指して

「コンクリート社会から木の社会へ」を合い言葉に国産の木材の利用拡大等による森林と林業の再生に向けた国の取り組みが始まっています。加えて、四年後の東京オリンピック・パラリンピックの会場・新国立競技場のデザイン案が木材を多用するものに決定するなど、今後、木材需要の拡大が見込まれます。昭和五十五年以降続く木材価格の下落等、苦境に立たされてきた林業。今、その環境が変わろうとしています。

今回の特集では、大きな好機を迎えている林業の成長産業化に向けた本市の取り組みを紹介します。

◎問合せ／本所農山漁村振興課 ☎25・21111 内線559

林業の現状と課題

本市の成長戦略「鶴岡ルネサンス宣言」の五つの文化都市宣言の一つに位置付けられている「森林文化都市」。地域の貴重な資源として、親しみと関心を持ってもらうことで市民と森林との新しい関係を作り、森林があることで生活が豊かになるまちづくりを目指すものです。本市の主要な産業の一つである林業は、その森林を守り育てる大切な役割を担っています。しかし、木材価格の長期低迷や安価な輸入材の増加等、長い間林業は厳しい状況に置かれてきました。国産材供給量は昭和四十二年を境に減少傾向にあり、国内の木材需要に占める国産材の割合を示す木材自給率は一時、一八・二%まで落ち込みました。

この状況を打開するため、国は平成二十一年に、「森林・林業再生プラン」を策定。「コンクリート社会から木の社会へ」を合い言葉に、三十二年までに木材自給率五〇%以上を達成するよう、国産材の利用拡大等のための施策を進めています。また、東京オリンピック・パラリンピック関連施設への木材利用や、まき、ペレット等の木材由来の再生可能エネルギーである木質バイオマス利用の活発化等、更なる需要拡大が見込まれ、林業は大きな好機を迎えています。

本市でも、昨年十二月の株式会社鶴岡バイオマスの本格稼働や、大型集成材（板材や角材等を接着加工した材）工場の新庄市への進出決定等による木材需要の増加が見込まれます。

しかし、この好機を逃さず、林業を成長産業に転換するためには、十分な木材需要を確保するとともに、地域産

材を積極的に利用する必要があります。また、木材の伐採や搬出、運搬に経費がかさみ、木材を生産するコストが高いことも課題です。高性能林業機械による作業や、大型トラックによる運搬が効率的に行える環境を整備するなど木材生産の低コスト化を実現しなければなりません。

さらに、木材は主に人の手で造成された人工林で生産され、例えば、杉は植林後三十五年から五十年で伐採時期を迎えます。しかし、本市の民有人工林の約九割が林齢三十五年を超え、伐採時期を迎えても皆伐されない人工林が増加しているのが現状です。また、木の健全な成長を促す間伐が行われていないものも多くあります。将来にわたって安定的に良質な木材を生産するために、「造林↓保育・間伐↓皆伐」を繰り返し、人工林の新陳代謝を図る必要があります。

林業の成長産業化を目指した取り組み

本市の林業が抱える課題解決に向けて、「地域産材の利用拡大」「木材生産の低コスト化」「森林資源の循環」の三つを柱とした林業振興に取り組み、成長産業への転換を目指します。

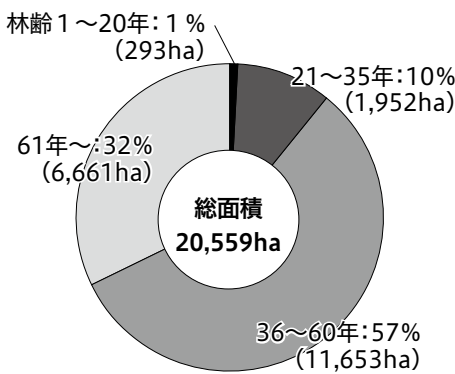
■地域産材の利用拡大

これまでも公共施設への地域産材の活用を推進してきた本市。昨年整備した朝日中は市有林から切り出された木材を使用した木造校舎で、ペレットボイラーを導入しています。また、建設中の羽黒庁舎にも地域産材の積極的な活用を計画しています。さらに、木質バイオマスの利活用を推進し、間伐材等の未利用木材の利用拡大を図ります。

■木材生産の低コスト化

特に重要となるのが林道や林業専用道などの道路網の充実。鶴岡市森林整備計画に基づき、大型トラックの運行が可能な道路の整備を着実に進めます。また、森林組合等が実施する森林施設の集約化や高性能林業機械による伐採・搬出が可能な作業道整備への支援を継続し、効率的な木材生産基盤の強化を図ります。

本市民有人工林の林齢別面積割合



作業道の整備



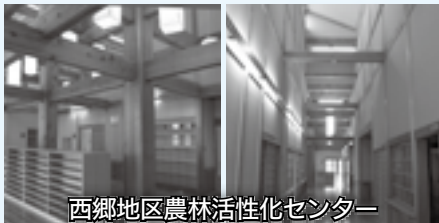
朝日中学校

林業の成長産業化

地域産材の利用拡大

公共施設への地域産材の積極的活用

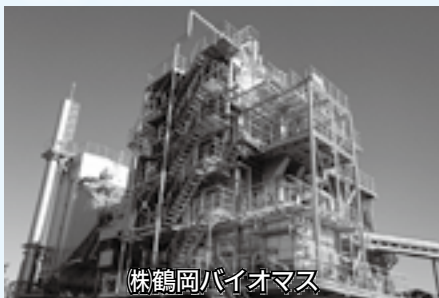
▷ペレットボイラー導入も含め、公共施設への地域産材の活用を推進します。多数の利用者が訪れる公共施設への木材利用は、一般住宅等への普及拡大等の効果も期待できます



西郷地区農林活性化センター

未利用木材を活用した木質バイオマス発電の推進

▷間伐材等これまで利用されてこなかった木材の木質バイオマス発電用燃料等への活用を推進します



（株）鶴岡バイオマス

木材生産の低コスト化

木材運搬のための道路網の充実

▷基幹路網となる林道や林業専用道を計画的に整備します



林道三瀬矢引線

森林施業の集約化

▷近接する複数の所有者の森林の取りまとめ等を支援し、間伐等の森林施業を集約化します。作業道等の効率的整備・活用にもつながり、更なるコスト低減が図られます

作業道整備の推進

▷高性能林業機械による木材の伐採や搬出が可能となる作業道の開設、既存の作業道の改良・維持管理の経費を助成します



高性能林業機械による作業

森林資源の循環

人工林の若返りや健全育成の推進

▷皆伐後の再造林や、本市の計画に基づく間伐の経費を助成します

中山間地域の特徴を生かした森林経営の検討

▷山菜やきのこなど木材以外の林産物を組み合わせた林業経営を検討し、森林資源の循環利用の促進と地域活性化の両立を目指します

【温海地域のモデル事業の流れ】

- ①森林組合と森林所有者が長期施業受委託契約を締結
- ②皆伐の実施
- ③皆伐跡地を活用した伝統の焼畑農法での温海かぶの栽培
- ④再造林の実施とワラビの植栽
- ⑤温海かぶやワラビの収益を下草刈り等の人工林の保育経費に充当



皆伐跡地での温海かぶ栽培

■森林資源の循環

森林所有者等が行う伐採後の再造林や、鶴岡市特定間伐等促進計画に基づく間伐への支援を通して、人工林の若返りと健全育成を図ります。また、中山間地域の特徴を生かしながら、森林資源の循環利用を促し、地域の活性化にもつながる林業経営を検討していきます。今年度は温海地域で、森林組合と連携し、皆伐跡地で栽培した温海かぶ等の販売で得た収益を、造林後の人工林の保育経費に充てるモデル事業を行っています。この取り組みには、森林所有者等の再造林への意識を高める効果も期待できます。

自然と共に生きる

森林は「木材等の林産物を生産する」ほか、「雨水を蓄え水源を保つ」「土砂災害等を防止する」など多くの機能を持つ、私たちの生活になくてはならない存在です。林業の振興は地域経済の活性化だけでなく、森林の保全にもつながります。本市では、恵まれた自然を生かし、自然と共に生きる地域づくりを推進するためにも、森林所有者や森林組合等と協力・連携しながら、林業の成長産業への転換を目指した取り組みを進めていきます。



森林文化都市・鶴岡